

①〔養蚕・繭錦絵〕・〔繭・糸とり・生糸錦絵〕・「大奥美人養蚕ノ図」 \*彩色

明治30(1897)年

養蚕錦絵は、江戸後期に登場しました。はじめ風俗美人画として市井の注目を浴び、しだいに作労風俗図としても広まるようになります。明治期には、物産絵、産業絵としての性格をもつようになります。

この錦絵は、明治30年に堤吉兵衛を版元に出版された楊斎延一の筆になるもので、養蚕錦絵の終末期の名品です。蚕種(卵)掃き立てから生糸生産までの一連の作業が、色彩豊かに3枚にわたって描かれています。

藤岡市・坂本計三家文書 P8202

No. 1278・1279・1228

